



NEW GENERATION ~未来を拓く若手経営者たち

アヤベの松田羽未常務は、繊維業界でも数少ない女性の若手経営者だ。紡績として原糸販売に特化している同社。「鹿児島工場での国内生産にこだわる」と話す。最終製品を見据えた糸作りのために、機業・ニッターとの取り組みを重視する。



アヤベ 常務
松田 羽未 氏

(まつだ はみ) 2003年アヤベ入社。同年取締役、06年常務。

目先の利益にとらわれない

紡績にとつて厳しい時代が続いています。そうですね。ただ、入社してから、こういう環境が当たり前という状態ですから、そんなに悲観はしていません。確かに厳しい環境ですが、少なくとも繊維は需要がゼロになることはないと思います。しかし、日本デモン作りをするとすると、やはり高級ゾーンでやらな



アヤベは1000種類を超える糸をラインアップする

いといけませんね。その高級品も、百貨店での衣料品販売が不振が象徴するようになっています。売れ行きが悪く、在庫が積みあがっています。根本的な要因は、不景気といつことがありま

日本製が欲しいという海外の富裕層にとって無視できません。ただ、量を追いかけるのは難しくなっています。現実には、すでに消費者は衣料品を持過剰しているという側面もありますし、娯楽の多様化で、衣料品以外の娯楽にお金が流れているというところもあると思います。

——そういつたなか、アヤベとして今後、どのような糸作りを目指しますか。

——当社は鹿児島に工場を持っていて、あくまで国内生産にこだわりたいと思います。品種は、ますます多くなっていると思いますが、あまり目立っていいでしょうか。た

——先利益だけにこだわれないことも重要。もちろん、素材メーカーが勝手に品種を増やしても意味がないことも重要。もちろん、お客と取組んで、ある意味、それが、それでも、また国内の顧客だけの商品を作るに生きる道があると思います。しかし、そのことが重要になります。

——そして、生地や最終製品道も、何年も続くものを見据えた糸作りです。はい、あります。ですから、そのためには、当社から、常に新しい道を見つけていく必要があると思います。

——女性としての視点も生かせる。そうですね。でも、細かいことにも気を配って見ることができるといいと思います。

——今後、アヤベをどうしていきたいですか。

——そうですね。